

女性の不妊治療を継続する上での役割認識と役割規定要因

著者	中嶋 文子
発行年	2001-03-26
URL	http://hdl.handle.net/10422/350

論文内容要旨

※整理番号	17	(ふりがな) 氏 名	なかじま ふみこ 中 嶋 文 子
修士論文題目	女性の不妊治療を継続する上での役割認識と役割規定要因		
<p>研究目的：不妊治療を継続している女性が、不妊の原因疾患の影響や、夫・家族などの周囲の人との関係の知覚によって、どのように自分の役割を認識しているかを明らかにする。</p> <p>研究方法：K 病院妊孕外来に通院している女性を対象に、質問紙調査法を行った。質問紙では、調査対象者が身近な人に対して持つ主観的な意見を聞いた。また、不妊の原因はカルテから抽出した。アンケートから抽出した不妊治療中の女性が認識している役割を、不妊の原因疾患が男女どちらにあるかを身体的要因とし、夫や家族などの周囲の人との関係を社会的要因とし、この双方から分析した。</p> <p>研究結果：女性が不妊治療を継続する上での役割認識と役割規程要因について、以下の点が明らかとなった。①不妊の原因が男女のどちら側にあるかという身体的要因と、夫や家族などの身近な人との関係をどのように捉えているかという社会的要因は、不妊治療を継続する上での役割を規程する要因であった。②身体的要因および社会的要因の影響を受けて不妊治療を続ける女性には、前提として「妻」「女」「娘」「嫁」としての役割認識があり、身体的要因によって役割認識の強さが違っていた。③不妊治療期間の長さは、女性が不妊治療を継続する上での役割認識に影響する傾向があった。</p> <p>考 察：不妊治療を継続する上で女性には「妻」「女」「娘」「嫁」などの役割認識があり、役割規定には身体的要因としての不妊原因や治療期間が影響していた。また、不妊治療期間が長くなると、自分なりの役割認識を持って治療に臨んでいることもわかった。医学的に不妊原因があるということにより、治療を継続していく上での負担感は原因によって違ってくるため、看護の関わり方も替えていく必要がある。また、女性が不妊治療を継続していく中での役割認識の変容は、「妻」という外発的なものから「女」という内発的なものに変化していた。不妊の女性が不妊治療を続けることを自らが見つめることができるようなかわりや機会を持つことで、治療の継続や、治療の中断を決定する際にも、新しい目標を見出すことの助けとなると考える。</p> <p>総 括：本調査では不妊治療を継続する女性の役割認識と、身体的要因と社会的要因が役割規程に影響していたことがわかった。本調査は、女性が不妊治療を継続する上での役割認識とそれを規程する要因を、不妊の原因となる疾患が男性、女性あるいは双方にある場合に分類して分析したが、各不妊因子群ごとに分類したことによって男性因子群と両性因子群の数が少なくなったため、今後は、男性因子および両性因子群によって不妊治療を継続している女性に研究を重ね、比較検討していくことで、不妊の原因によって女性が不妊治療を続ける上での役割認識に影響する要因の妥当性を明らかにすることが求められる。また、今回明らかになった各不妊原因群や治療期間ごとの傾向を、質的研究によって裏付けていくことも必要であると考えます。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字以内)
2. ※印の欄には記入しないこと。